

平成 20 年度研修員 福島 葉子さんの声

プロフィール

民間企業で 6 年間購買を担当し、大学院では平和学を専攻しました。海外実務研修は、WFP（国連世界食糧計画）ケニア事務所で食糧購買に携わりました。今後、JP0 として WFP に派遣される予定です。これからも購買関係の仕事を続けたいと思っています。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

応募当時は平和学修士号取得の為の大学院生活の終盤にかかっていた頃で、卒業後の進路に悩んでいました。民間での職務経験しか無く、フィールド経験の無い私が平和構築の分野で生きていくにはどうしたらいいのか。購買という自分の専門性を、平和構築の分野でどのように活かすことができるのか。そのようなことに頭を悩ませていた時に、大学院のクラスメートから本事業のことを聞き、興味を持ったのがきっかけです。

大学院で平和学を専攻したとはいえ、平和構築分野で実際に働いたことが無かった私は、この業界での仕事にはどんなものがあるのか、仕事の具体的なイメージがつかめないうでいました。そこで、本事業を通じて平和構築での仕事の実像というものを知りたい、と思ったのが第一の応募の理由です。第二に、自分の専門である購買を、平和構築分野で活かすことができるのか、またできるとすればどのように活かす方法があるのか、といったことについても模索したいと思いました。第三に、研修を通じて、この業界で生きていくのに必要とされる資質・スキルは何か、その中で自分に足りないものは何かについても知りたいと思いました。既に、自分に関してはフィールド経験が浅いことを自覚していたので、海外実務研修の一環として国連機関で働けることは非常に魅力的でした。

ちなみに、応募書類の一つが、平和構築に向けたキャリアプラン（研修後 1 年、3 年、5 年後など段階別で）の作成だったのですが、実は、このプランを作ることそのものにもかなり頭を悩ませられました。というのも、上記にあるとおり、本当は具体的なイメージが自分で描けないうでいたからです。ちょうど、大学院での課題で忙しい頃でもあったので、正直一時は応募をあきらめてしまおうと思ったこともあったのですが、クラスメートの「平和協力業界でのこういった研修はまだ珍しいし、いいチャンスだから頑張ろう」という言葉に励まされて、なんとか期限ギリギリに大学の図書館からメール送信したのを覚えています。今思い返すと、クラスメートの協力とサポートが無ければ、応募すらできていなかったと思うので、本当に感謝です。夜、課題が終わった後、寮の部屋でクラスメートと頭をつき合わせてキャ

リアプランを作る為のメモを書いたり、相談をしたりしたことも、今では良い思い出です。

2. 国内研修の感想は？

平和構築分野での第一人者の方々に数多くお目にかかることが出来、お話を聞くと同時に進路相談できたことが何よりも収穫でした。繰り返しになりますが、この業界での経験が浅い私なので、自力では到底お会いできない第一線の方に会えた事は光栄でした。また、国内研修は広島での合宿形式で行われたこともあり、講義時間中だけでなく、夕食中、夕食後など、リラックスした雰囲気の中で色々な体験談をお聞きできたことはとても為になりました。研修で衣食住を共にしたことで、研修員同士もとても仲良くなり、今後のキャリアに関する悩みなどについても話し合えたことも良かったと思います。

研修の内容も、ただ座って聞いているだけではなく、実際にグループでのワークショップなど実践的なものが多く、仕事内容や仕事をする上で注意すべき点、必要となってくるスキルなどを具体的にイメージすることができました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

私は、国連世界食糧計画（World Food Programme: WFP）ケニア事務所に購買担当として配属されました。具体的には、「前進の為の食糧購買」（Purchase for Progress: P4P）という WFP の新規プログラムの為の購買活動を担当しました。P4P では、WFP が食糧援助の為に買う食糧を、これまでのように大規模な仕入先か



〔フィールドトリップ中の福島さんと同僚〕

らのみ購入するのではなく、一部を小規模農民から買い上げ、そのこと

で彼らの現金収入を増やして生活基盤の安定化、貧困からの脱却を目指す、ということを目的としています。P4P では小規模農民からの食糧買い上げを行う為、従来の買い方を変える必要がありました。例えば、通常 WFP の支払い日数は 30 日（食糧の場合）ですが、小規模農民は、現金の持ち合わせが少なく、ギリギリの生活をしている為、穀物を売った後 30 日も支払いを待つことができません。その為、従来の支払いプロセスを改善し、短い期間で支払い

を行うにはどうしたらいいか、といったことを検討していました。これは、購買だけではなく、財務、輸送チームなど Supply Chain 全体に関わる変革が必要であり、非常に難しい課題でした。残念ながら、研修期間が短かった為、最終的な結論が出る前に帰国となってしまったのですが、議論の為の原案を作り、各部門と何度も会議を重ねていくことは、非常に勉強になりました。

4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは？

自分の力不足を痛感しました。購買という仕事は、民間企業で 6 年やっていたので、下地もやっていける自信もある程度あったのですが、派遣当初は戸惑いの連続でした。まず、買うものが違いましたし（民間時代は IT サービスの購入、WFP では食糧購入）、気をつける点（食糧購買の場合、穀物の品質管理、迅速な輸送などが必要となってきます。何しろ腐ってしまうものなので…）も違います。また、組織としてのやり方の違い、購買の役割の優先順位の違いも驚きでした。例えば、民間ではコスト削減が一番なので、購入の際は交渉を繰り返し行い、1 円でも安く購入できるよう努力します。一方、WFP のような人道支援の団体では、公平性が重視されるので、厳密なプロセスにしたがって入札が行われ、原則入札後の値段交渉はしません。これはかなりショックでした。

一時は、あまりの自分の役立たなさに、自分は何の為にここにいるのか、悩んだ挙句、上司に何故私を採用したのか直接聞いてしまったことさえありました。

幸い、ケニア事務所は優秀なローカルスタッフが数多くいて、親切に色々教えてくれ、食糧購入に不慣れな私もなんとか仕事をすることができました。

海外実務研修で一番印象に残っているのは、WFP への人々の期待の高さでしょうか。小規模農民からの購入と言う P4P の特性上、彼らと会う為、車でフィールドに出ることも多かったのですが、WFP の車が来ただけで人々が集まってきますし、実際話をした農民グループの長から P4P への期待の言葉も直接もらいました。期待が高いということはありがたいことではありますが、同時に責任の重さをも感じました。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

JPO として、WFP に派遣される予定です。具体的なポストについてはまだはっきりと決まっていますが、引き続き購買関係の仕事を行っていく予定です。

6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージ

本事業は、平和構築分野での第一線で活躍する数多くの方々からお話を聞くことができ、自分自身も数ヶ月海外実務研修を通じて平和構築の仕事というものを体験し、考えることのできる良い機会だと思います。

一般的に、平和構築と言うと、停戦合意の為の仲裁だとか、和平後の武装解除だとか、いわゆる文民の関わる場所では無い様なイメージがあるかと思いますが、そんなことはないと思います。

短期間ながら私自身が携わった購買力を使った貧困削減も、平和の為には必要なことですし、国際平和協力の道というのは、もっともっと幅の広いものだと思います。メディア業界で世界の出来事を伝える記者さんの仕事も国際平和協力だし、学校で教育を担う先生の仕事も、会社の人事の仕事も、全てひいては平和構築に役立っていくものです。

私自身、平和構築業界で既にご活躍されている方々、また様々なバックグラウンドを活かして平和構築に関わろうとしている研修員仲間との交流を通して、平和構築の幅の広さというものを実感しました。

平和構築の裾野を広げる為にも、自分のこんなバックグラウンドではダメじゃないかな、と臆すること無く、様々な方が応募されることをお祈りしつつ、メッセージとさせていただきたいと思います。

平成 20 年度研修員

福島 葉子